

2022年8月5日
一般社団法人日本鉄鋼連盟
標準化センター事務局

2022年度 第2回鋼材規格三者委員会 議事録

1. 日 時： 2022年7月28日（木）13:30～15:00

2. 場 所： Web 会議

3. 出席者：（敬称略）

委員長：榎（東京大学）

副委員長：緒形（物質・材料研究機構）、田中（東京理科大学）、藤原（EMF 応用計測）

委 員：沖（建築研究会）、小野（日本分析化学会）、小野寺（日鉄SGワイヤ）、河口（不二越）、
栗原（日本伸銅協会）、桑原（東京農工大学）、後藤（大同特殊鋼）、近藤（日産自動車）、
酒井（神戸製鋼所）、桜井（日本鋼構造協会）、種物谷（高圧ガス保安協会）、
堤（日本規格協会）、戸上（日本アルミニウム協会）、富永（三菱重工業）、
中澤（JFEスチール）、林（元理化学研究所）、藤井（日本試験機工業会）、
藤田（栄）（北海道大学）、藤田（慎）（日本金属継手協会）、
松本（聡）（日本製鉄）、山口（九州工業大学）

（委員長・副委員長・委員計 25 名）

欠 席：相川（日本水道協会）、熊井（日本検査キューエイ）、富山（土木研究所）、
松本（和）（日本海事協会）、山田（東京大学）

関係者：伊藤（隆）・伊藤（実）（経済産業省）、甲斐（国土交通省）（関係者計 3
名）

幹 事：玉田（鉄鋼連盟）

事務局：寺澤・石川・楠野・井田・山本・越川・齋藤（鉄鋼連盟）（事務局計 7
名）

4. 議題及び配布資料

1) 報告

資料 1-1：2022 年度 第 2 回鋼材規格三者委員会 名簿

資料 1-2：2021 年度第 3 回～第 5 回・2022 年度第 1 回鋼材規格三者委員会議事録

資料 1-3：2021 年度事業報告及び 2022 年度事業計画

2) JIS 規格審議

<改正>

資料 2：JIS G 3302 熔融亜鉛めっき鋼板及び鋼板

資料 3：JIS G 3317 熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯

資料 4：JIS G 3321 熔融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯

資料 5：JIS G 3323 熔融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板及び鋼帯

資料 6：JIS G 3314 熔融アルミニウムめっき鋼板及び鋼帯

資料 7：JIS G 3117 鉄筋コンクリート用再生棒鋼

資料 8：JIS G 3467 加熱炉用鋼管

- 資料 9 : JIS G 3477-1 ポリエチレン被覆鋼管－第 1 部 : 外面 3 層ポリエチレン押出被覆鋼管
資料 10 : JIS G 3477-2 ポリエチレン被覆鋼管－第 2 部 : 外面ポリエチレン押出被覆鋼管
資料 11 : JIS G 3477-3 ポリエチレン被覆鋼管－第 3 部 : 外面ポリエチレン粉体被覆鋼管
資料 12 : JIS G 0556 鋼の地きず肉眼試験方法
資料 13 : JIS G 0566 鋼の火花試験方法

5. 議事内容及び結果

委員、関係者及び幹事の交代の紹介、並びに榎委員長のご挨拶の後、以下の議事が進められた。

- 5.1** 幹事から、委員会名簿及び 2021 年度第 3 回～第 5 回・2022 年度第 1 回の議事録が報告された。これらの議事録は、会議後に既に承認されており、特にコメントはなかった。
- 5.2** 寺澤事務局長から、2021 年度事業報告及び 2022 年度事業計画について報告された。
- 5.3** 審議案件の改正 JIS 案 12 件について鉄鋼連盟の事務局より内容が説明され、以下の質疑応答があった。
- 1) JIS G 0566 に関して、前回から 42 年ぶりの改正となった理由について確認され、本規格が鋼材の取引に直接使用されておらず、また、本質的な技術の変更がなかったためと説明された。併せて、計画的に古い規格の改正を進めていることが報告された。
- 上記の他、原案修正点は、規格ごとのコメントテンプレートに記載されたとおり、修正することとし、いずれも承認された。

5.4 その他

幹事から、次回の鋼材規格三者委員会は 12 月 21 日（水）に開催することが説明された。なお、必要に応じて、臨時案件についての書面審議を行うことを確認した。

以上

2022年度 第3回鋼材規格三者委員会（書面審議） 議事録

1. 日 時： 2022年9月8日（木）～9月16日（金）

2. 場 所： 書面審議

3. 出席者：（敬称略）

委員長：榎（東京大学）

副委員長：緒形（物質・材料研究機構）、田中（東京理科大学）、藤原（EMF 応用計測）

委 員：相川（日本水道協会）、沖（建築研究会）、小野（日本分析化学会）、

小野寺（日鉄SGワイヤ）、河口（不二越）、熊井（日本検査キューエイ）、

栗原（日本伸銅協会）、桑原（東京農工大学）、後藤（大同特殊鋼）、近藤（日産自動車）、

酒井（神戸製鋼所）、桜井（日本鋼構造協会）、種物谷（高圧ガス保安協会）、

堤（日本規格協会）、戸上（日本アルミニウム協会）、富永（三菱重工業）、

富山（土木研究所）、中澤（JFEスチール）、林（元理化学研究所）、

藤井（日本試験機工業会）、藤田（栄）（北海道大学）、

藤田（慎）（日本金属継手協会）、松本（和）（日本海事協会）、

松本（聡）（日本製鉄）、山口（九州工業大学）山田（東京大学）

（委員長・副委員長・委員計30名）

関係者：伊藤（隆）・伊藤（実）（経済産業省）、檜原・甲斐（国土交通省）（関係者計4名）

幹 事：玉田（鉄鋼連盟）

事務局：寺澤・阿部・石川・楠野・井田・山本・越川・齋藤（鉄鋼連盟）（事務局計8名）

4. 議題と配布資料

JIS G 1201（鉄及び鋼—分析方法通則）:2022 正誤票（資料1）

5. 決議年月日

2022年9月20日（火）

6. 結果

次のとおり、誤記であること及び修正内容が正しいことを確認した。

審議事項	資料 番号	賛成	反対	結果
JIS G 1201（鉄及び鋼—分析方法通則）:2022 正誤票	1	30	0	承認

以上